

表1. 「ベトちゃんドクちゃんの発達を願う会」の活動

1961.12.14.	第二次ベトナム戦争が始まる。アメリカ合衆国は「南ベトナムを共産主義者の侵略から守る」という理由をつけ、北ベトナムと全面戦争。
1961～1971	枯葉作戦実施。枯葉作戦とは、ベトナムの解放勢力へ食料を断つたため穀倉地帯の収穫を全滅させ、ゲリラ兵の根拠地である広大なジャングルを丸裸にすることなどを目的として、ダイオキシンの混入した「除草剤」を南ベトナムの各地にばら撒く化学戦争のことである。ダイオキシンは、致死毒性ばかりでなく、発がん性や催奇性においては、自然界はもちろん、人類が生み出してきたあらゆる化学物質のなかでも毒性が強いと言われている。
1965～1968	アメリカによる北ベトナム爆撃（1972.4.6に再開）
1975.4.30	ベトナム戦争終結。南ベトナム政府、無条件降伏。
1981.2.25	ベトとドクが、南ベトナム中央高原のジャライ・コントゥム地区で生まれる。（出産直後、省のコントゥム医科大学に入院。その後ハノイに送られる。）
1981.5	ハノイのベトナム・東ドイツ友好病院で大切に育てられる。はじめ、バァ・ボン（二男・三男）と呼ばれていたが、病院の名前をもらってベト・ドクの名に変わる。
1983.1.6	ホーチミン市のツーズー病院に移る。元気で快活なベト、やや弱虫でおとなしいドク、というように性格の違いも現れてくる。
1985.2.28	藤本文朗が、ツーズー病院でベトとドクに会う。二人の主治医のフォン博士から、特製車いす製作を頼まれる。
1985.3.15	特性車いす作製のために、設計者山口光義さんの病院に有志が集まる。「ベトちゃんドクちゃんの発達を願う会」発足。ベトとドクのために「愛の車いす」を送る運動を展開する。
7.10	特性車いす（手と足の力で動かせる車いす）完成。
8.20	募金により「願う会」が医薬品と市販製車いす20台をベトナムに贈る。
10.25	フォン博士が「願う会」の招待で来日。
10.25	三方町（福井県）と東京市で車いすの贈呈式とフォン博士の講演会。
10.30	フォン博士、藤本、ニュース・ステーション出演。フォン博士「ダイオキシンは日本の問題ですよ」と警告。
11.6	フォン博士、車いすを土産に帰国。
1986.5.22.	ベトが原因不明の脳症にかかる。
5.28	ベトナム大使館から「願う会」へ医療援助の要請がくる。
1986.6.11	日本赤十字病院の医師団がベトナムに向かう。

6.19	ベトとドクが日本に移送される。日赤医療センターの集中治療室で治療。
8.15	「願う会」が「がんばれ ベトちゃんドクちゃん」を発行。
10.29	ベトの症状安定。ベトとドクがベトナムに帰国。
1987.3.30	「願う会」が、英語版「Cheer Up, Viet and Duc」を発行。
4.5	「願う会」が、ベトとドクが絵を描いたり、文字を練習できるように、文房具セットを贈る。
7.1	2台目の特製車いす完成—ドクちゃんだけの力だけで動かせる車いす。
7.14	2台目の車いすを持って、藤本代表がベトナムを訪問。車いすのプレゼントとともに、ベトの療育プログラムについて指導。
9.20	「願う会」が「がんばれ ベトちゃんドクちゃん PART II」を発行。
1988.10.4	ベトとドクの分離手術が奇跡的な成功をおさめる。
1989.2.25	分離後のドクが乗る3台目の特製車いす完成。寄贈。8歳の誕生日に、ドクは「願う会」寄贈の松葉杖で独り立ちする。
1992.8.18	日越友好障害児交流セミナーが始まる。(以後16年間続けて実施)
1993.7.28	ドクが義足で歩行できるよう、「願う会」が仲介役となり、兵庫県総合リハビリセンター中央病院で、3か月間訓練を受ける。
1994.8.18~28	三菱銀行国際財団の助成で、ホーチミン市ニャーベー県の不就学児・家族の生活実態調査始まる。(以後3年間継続実施。)
1995.7.19	ドクの人工肛門を自然肛門に戻すため「願う会」が仲介役となり、三重大学医学部附属病院で手術を受け成功。
12.28	ハノイ市近郊で、南ベトナムで枯葉剤を浴びた兵士の二世障害児の検査・診療にあたる。
1996.12.28	クアンチ省で、枯葉剤を浴びた両親から生まれた二世障害児の検査・診療にあたる。
1996.6 1996.9	ドク、ホーチミン市第10区高等職業学校(コンピュータ下院系)修了。「願う会」、ホーチミン市の幼児師範学校でベトナム初の障害児師範養成コースを開設(ハノイ師範大学ホーチミン市分校)
2000.3	ドク、三輪バイクを利用し自由に外出可能となる。
2003.4.	ドク、ホーチミン市ツーズ一産婦人科病院の職員となる。
2006.12.16	ドク、チュエンさんと結婚、新居をかまえる。
2007.10.4	ベト、死亡。
2008.10.4	ベトとドク分離手術成功20周年の記念式典が行われる。
2009.1	ドク・チュエンさんの人工授精による出産の可能性が報じられる。
2009.4.26	ドクらベトの追悼法会の集いのため訪日(京都)
	「願う会」『ベトとドクが教えてくれたもの』出版。